

計画番号	79
事業番号	03-01-03-012400
担当課	高齢介護課
記入者	音道
内線	353

事業検証シート

基本目標	健康・福祉	すべての市民が健やかに暮らせるまち		
施策名	高齢者福祉の充実			
基本事業名	見守り体制の充実			
事業名	緊急通報体制等整備	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続		
目的	高齢者の急病又は災害等の緊急時において、迅速かつ適切な医療活動等の対応を出来る体制を整備する。また、独居高齢者の在宅生活における孤独感の軽減と緊急時の早期発見の体制を整備する。			
手段	在宅の高齢者に対しては救急医療情報キットを無償配布し、独居高齢者に対してはデジタル機器（見守りロボット）の実証実験を実施し導入について検討する。さらに、青森県社会福祉協議会の福祉安心電話サービス事業の利用経費を一部助成する。			
事業開始年度	令和2	年度	事業終了年度	—
成果指標	現状値の推移		目標値	
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	
①救急医療情報キット配布数	240	※	1,000件/年	
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	
事業費 (単位：千円)	74	55	※	
備考	※			
事業実績	実施内容			
	①広報令和4年1月号に、医療情報内容更新について周知した。 ②普及・周知用チラシは関係機関や保健協力員等に配布した。介護予防把握事業で高齢者を訪問した際に、救急医療情報キットの情報提供や医療情報の更新の必要性について説明した。ホームページ上で、医療情報の更新のお願いを掲載。			
	事業実績（成果指標以外）	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
	①広報掲載回数 ②普及・周知用チラシ配布数 ③救急医療情報キットが救急活動等に活用された件数 ④緊急通報装置設置費助成事業利用者数	①1回 ②1,005枚 ③5件 ④1人	※	※
事業評価	①広報に救急医療情報キットについて掲載したが、窓口での申請件数の増加はあまりなかった。 ②在宅介護支援センターや地域包括支援センター等関係機関にもチラシ配布しているが、周知不足と思われる。 ③市役所担当窓口に、申請に来ることが基本になっているためか、申請が伸び悩んでいる。			
達成状況	<input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> おおむね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった <input type="checkbox"/> その他			
今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化を図る <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を改善して継続 <input type="checkbox"/> 事業の統廃合を図る <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 完了			
上記理由	救急医療情報キットを設置している高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯を増やし、救急搬送時の適切な医療につながる環境づくりを促進するため。			
今後の改善内容	チラシの配布先や、市役所1階フロアでのモニター放映など、多様な方法による周知と、訪問による配布など、配布方法の改善を行っていく。			

緊急通報体制等整備事業 について

令和4年9月30日(金)
十和田市 健康福祉部 高齢介護課

緊急通報体制等整備事業

【事業目的】

高齢者の急病又は災害時等の緊急時において、迅速かつ適切な医療活動等の対応ができる体制を整備する。

また、独居高齢者の在宅生活における孤独感の軽減と緊急時の早期発見の体制を整備する。

緊急通報体制等整備事業

(1) 緊急通報装置設置助成事業

(2) 救急医療情報キット配布事業

(3) 高齢者見守り支援事業



(1) 緊急通報装置設置助成事業

① 事業概要

■ 利用対象者：① 一人暮らし高齢者

② 高齢者夫婦

③ 身体・精神障がい者

■ 費用：住民税が非課税世帯の場合は、市から助成
会費は月1,000円で自己負担

□ 協力員：緊急事態にかけつけてくれる方。事前に利用者から
3名程度推薦していただく。



②事業実績

		平成29年 度	平成30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
助成対象者	新設	4人	2人	2人	2人	1人
	更新	0人	0人	0人	0人	0人
助成額		264千円	132千円	132千 円	132千 円	66千円

- 令和4年7月現在の全利用者 24名
- 市からの助成による設置者 21名
 - 自費による設置者 3名

(2)救急医療情報キット配布事業

①事業概要

在宅の高齢者に対して、緊急連絡先、かかりつけ医療機関や持病等の救急時に必要な情報を保管する容器等（情報キット）を配布し、各家庭の冷蔵庫に情報キットを保管してもらう。

救急時において、救急隊員及び搬送先の医療機関が情報キットを活用し迅速かつ適切な医療活動を行うことのできる環境を整備する。



②事業実績

■救急医療情報キット配布状況

	令和2年度 (1~3月)	令和3年度
満70歳以上の一人暮らしの人	165人	137人
満70歳以上の者のみの世帯に属する人	92人	76人
その他	36人	27人
計	293人	240人

■救急医療情報キット活用状況

令和2年度 0件、 令和3年度 5件

③救急医療情報キット周知状況

普及啓発用チラシの配布

町内会連合会総会、保健協力員、介護予防把握事業

（7 在宅介護支援センターによる高齢者訪問時に配布）

3 地域包括支援センター


88歳顕彰状贈呈対象者 等

※ 市役所・中央病院にパンフレットを設置









事業費：救急医療情報キットPRちらし印刷費 64,900円

③救急医療情報キットPR状況

 **十和田市からのお知らせ**

**「救急医療情報キット」を
救急搬送時の備えとして無料配布します**

「かかりつけ医療機関」「持病」などの医療情報や、緊急連絡先などの情報を専用の容器に入れ、自宅の冷蔵庫の中に保管しておくものです。

お問い合わせは、高齢介護課 高齢者総合支援室まで

(3) 高齢者見守り支援事業について



①-1 事業概要

■ 高齢者見守りロボット導入事業 実証実験

事業概要	
対象者（モニター）	単身の在宅生活者で満70歳以上の高齢者
期間	令和3年7月～令和4年1月末まで
参加者	10人
ロボットによる支援内容	緊急連絡機能・定期的な写真撮影・おしゃべり機能等

■ 事業費：高齢者見守りロボット実証導入業務 1,668,700円

①- 2 事業概要

■対象者の内訳

モニターの年齢	
70～74歳	2名
75～79歳	3名
80～84歳	2名
85歳以上	3名

モニター一家族の住所地		
市内	4名	三本木字並木西(2)、西二十一番町、三本木字稻吉
県内	4名	青森市(3)、六戸町
県外	2名	東京都(2)

②事業実績

■ 中間評価

10月上旬、モニター本人に聞き取り調査

本人満足度

「パペロを利用して初めての満足度はどのくらいですか？」

➔ 70%

写真撮影利用頻度

7回/週：3名、 6回/週：2名、 5回/週：1名、 1回/週：3名、
0回（送り方がわからない）：1名

□写真撮影利用頻度 (あんしんクラウドでの利用状況)

7月22日～28日(1週間)

撮影回数 (回/日)	人数	家族反応	人数
1回未満	2	反応無	5
1回	1	反応2～3日1回有	2
1～2回	4	反応ほぼ毎日有	3
2～3回	3		

□写真撮影利用頻度 (あんしんクラウドでの利用状況)
 1月27日～31日(5日間) 一人 撤収済み

撮影回数 (回/日)	人数	家族反応	人数
1回未満	3	反応無	7
0～1回	2	反応2～3日1回有	1
1回	1	反応ほぼ毎日有	1
1～2回	1		
2～3回	2		

■ 最終評価

2月中旬、ロボット回収時モニター本人に聞き取り調査

〃 家族にアンケート調査

□本人満足度

「パペロを利用してみての満足度はどのくらいですか？」

➔ 69.4%

□家族満足度

➔ 74.4%

合計満足度 72%

◆ 実証実験結果 ➔ 「導入は見合わせる」

・安否確認となる写真撮影等の頻度の低下、電話やスマートフォンを使用できる方は必要性を感じないことなどから、効果的な見守りとは言えない。

・委託事業者が令和6年度末で事業を終了する。

ご清聴ありがとうございました。



	緊急通報体制等整備	回答
質問事項	<p>①緊急医療用キットについて、配布数240件ですが、対象見込みは何件(何世帯)でしょうか。また、他市町村でも同様に配布していると思うが、比較して配布件数は多いですか、少ないですか。</p>	<p>事業立ち上げ当初、平成27年の国政調査からの65歳以上の高齢単身者数2,776人、高齢者夫婦世帯数2,808件を参考に、対象を70歳以上ひとり暮らしの者、満70歳以上者のみの世帯に属するもの等とし、5,000人以上を見込んでいます。県内で実施している6市の令和3年度の配布状況は、市によって配布要件は異なるが、むつ市423件、弘前市318件、八戸市58件、黒石市58件、三沢市4件となっている。</p>
	<p>②訪問による配布など緊急医療用キットの配布方法を改善することだが、配布時に記入を代筆することはできないでしょうか。</p>	<p>救急活動の際、救急隊が本人及び、同居人の同意を得ることなく保管容器を取り出す場合や、搬送先医療機関が保管容器内の救急医療情報を活用する。また救急医療情報紙に記載されたかかりつけ医療機関に搬送されない場合がある等の理由から、申請時に本人又は申請者の本人確認及び同意書を提出してもらっている。誰もが代筆できるものとはしていないが、配布対象者本人の同意が困難な場合は、三親等以内の親族又は、成年後見人等が同意及び代筆できるものとしている。</p>
	<p>③緊急医療情報キットの申請が伸びていないようですが、病院に協力してもらって病院窓口で申請できるようにはできないのでしょうか。</p>	<p>現在は、十和田市立中央病院の相談支援センターに「救急医療情報キット」のリーフレット、見本を置き、希望する方に申請様式の配布は行っているが、申請手続きは、高齢介護課で行っている。今後、病院窓口での申請について十和田市医療介護連携推進会議の中での検討していく。</p>
	<p>④見守りロボットについて、実績をお示ください。また、現在も導入していますか。</p>	<p>令和3年度に実証実験として10組の家族に7か月間モニターとして協力していただいた。今回の実証実験からモニター終了後の満足度は、高齢者本人69.4%、離れて暮らす家族74.4%、総合72%であった。写真撮影等の頻度が低下し、毎日の見守りにならないケースが半数以上いたこと、電話やスマートフォンが使用でき必要性を感じないことなどから効果的な見守りとは言えないこと、さらに委託事業所が令和6年度末にはこの事業を終了することから、総合的に判断し、事業の導入は見合わせることにした。</p>
	<p>⑤見守り体制について、郵便局や新聞店との連携はどうなっていますでしょうか。</p>	<p>市と日本郵便株式会社は包括連携協定を締結しており、定期的及び必要時高齢者の見守り活動に係る情報提供をしていただいています。また、地域の中で高齢者の異変に気付いた時、速やかに対応する等の高齢者の見守りに協力する「高齢者あんしん見守り協力隊登録制度」に、市内14か所の郵便局、5か所の新聞店が登録し協力いただき、連携を図っている。年度末に提出される活動報告書のから状況を把握している。</p>
	<p>⑥一人暮らしの家族などが帰省する正月・盆の時期に広報・配布事業を強化などしていますか。</p>	<p>救急医療情報キット配布事業は、令和2年1月に開始のお知らせ、令和3年1月に新規申請と救急医療情報紙の更新のお知らせを広報に掲載した。今後は、離れて生活する家族が帰省するお盆の時期に広報等の活用について検討していく。その他の普及啓発としては、リーフレットを、町内会会長、保健協力員への配布、88歳顕彰状贈呈者に送付にしている。また、7月からは、市役所1階の電子掲示板を活用し行政情報としてお知らせしている。</p>